
DRAGON

MIST

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

D R A G O N

【Nコード】

N 7 1 7 2 A

【作者名】

M I S T

【あらすじ】

王より竜王討伐を命じられた勇者と魔導師の話。物凄く短いです。

強いから
竜王討伐に選ばれた
勇者だと言われた
あの峰に、本当は竜王なんていやしない
何故なら私が…

D R A G O N

「ここが竜王のいる山ですね」
笑顔で言うのは、私の（自称）仲間、フェイという子供だった。
「そうだな」
私は相槌をうつて先を見た。草木は無く、ただ荒れた大地が剥き出しの山は、どことなく痛々しい。

この先に、竜王はいない。

だから勇者に選ばれた時、私は嘘をつこうと心に決めていた。

王、竜王はこの私が倒しました。もう安全です。

と。

だけれど、話はどうも上手くいかない。

竜王と戦うなら、魔導師が必要だな。ならばフェイを連れて行くが良い。

ああ…なんて迷惑な！

そして私は、なんの打開策も思いつかないまま、フェイと共にこの竜王の峰まで来てしまったのだ。

しかも、竜王の巢（家？）はもう目前にまで迫ってきていた。

「勇者様、もうすぐ竜王の巢です。どうしますか？」

いや、本当にどうしよう。

「…どうもなにもない。行くぞ」

さあ、どうする。

竜王の巢に到着した。

しかし、誰も何もいなかった。…当たり前な話だが。

「…いないですねー」

「そうだな」

そう言つて、私は街の方向へ足を向けた。

「そうだなって…って、勇者様?! どこに行くんですか?!」

「帰る」

「竜王はどうするんですか?」

「竜王は私が倒した」

フェイは黙った。

「そういうことにして、帰ろう。王にそう報告しよう」

私は半ば、投げやりに言った。

まあ、こんなんで納得してくれるフェイではないだろうが。

「嘘をつくのですか…?」

「辺りを見てみる。竜王どころか人影さえない。竜王なんて最初からいないんだ」

「なんでそんなことが言えるんですか」

「それは、私が竜王…」

まずい

なんて間抜けな話だ。

「私が…？」

ほら、

感づかれた。

「いや、なんでもない…」

ああもう、なんで今に限って良い言い訳が出てこない！

「…勇者様は、ここにいた竜王のことを知ってるのですね？」

これはもう、本当の事を言うしかないだろう。

なんて反応をするのだろうか…

何故、王に言わなかった！ってあたりかな…

「…二年前の話だ。私はここで、竜王と戦い…勝利した」

その言葉を聞いて、フェイは愕然とした。

そうなんだ。二年前に、私は竜王を倒したんだ。

でも、何故

竜王討伐に向かった勇者は、誰も帰ってこなかったのだろうか…

「そうだったんですか…」

フエイが、ゆっくりと言った。

「そうか…貴方が私の父を…」

その時、私はなんて言われたのか
一瞬では理解できなかった

END……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7172a/>

DRAGON

2011年1月28日14時30分発行